

漢字指導が他の学習領域を侵すことはない

まえにも言いましたが、石井方式・漢字教育は、幼稚園の従来の学習領域を侵すものでは絶対にありません。もし侵しているとしたら、それは石井方式ではありません。

大阪市を中心に始められたこの教育は、すでに一年以上経過しています。この漢字教育によって、他の学習領域が活発になり、効果が以前より上がっている、という報告が、私の所にたくさんきています。

中には、漢字教育に負担を感じている、他の領域の学習を侵している、という幼稚園もないではありません。しかしそれは、石井方式を正しく理解しておらず、正しく実施していないためで、正しく行なえば、絶対にそういうことはなくなります。

“漢字を教える”のではなく“漢字で教える”のですから、幼児のあらゆる学習活動の中で行なわれるべきものです。漢字が学習の直接の目標にならないように、漢字が“それとなく”使われる、というのが理想的です。幼児たちが、漢字学習をしているとは全く感じられないような学習が良いのです。

まず初めに私が行なったのは、幼児たちが“物語を聞く”学習であったわけです。幼児たちは、私の語る物語を静かに聞き、そのあらすじがわかれば、それでこの学習の目的は果たされることとなります。その“聞く”学習の中に“漢字”が時々顔を見せる。幼児たちは、それをひとりでに(覚えようという意識をもっていないのに)覚えてしまうのです。

幼児たちが漢字を覚えたことによって“聞く”学習が、何か失われたでしょうか。失われるどころか、“聞く”学習の効果は時々見せられる漢字によって高められました。

黒板に書き並べられた漢字は、話が終わってもまだ残っていて、物語の展開のあとを子供たちに語りかけていました。漢字を見ることによって、物語の記憶が確められ、整理されました。